



チヨウザメのキャビア採取の風景

地域活性化
プロジェクト
に伴う

「地域協働による 専門高校活性化プラン」 への取組

鹿児島水産高等学校

本校の学科

本校は県内唯一の水産高校で、今年創立107周年を迎える歴史と伝統のある学校です。

海洋科（海洋技術コース、機関コース、栽培工学コース）、情報通信科、食品工学科の三つの学科と、さらに2年課程の専攻科（海洋技術科、機関技術科、情報通信科）が併設されています。

本校では社会人としての基礎を培うという観点に立ち、家庭・地域及び関係機関・団体との連携を密にしながら「二十一世紀のふるさとの海を拓く生徒づくり」を目標に、特色ある学校づくりに取り組んでいます。

地域活性化

プロジェクト

そのひとつに、今年度鹿児島県教育委員会の指定を受けた地域活性化プロジェクトに伴う「地域協働による専門高校活性化プラン」があります。これは、「将来の地域産業を担う職業人の育成」と「地域貢献に資する人材の育成」が目的で、主として食品工学科と栽培工学コースの生徒が取り組みます。

内容は、食品工学科では生徒による「かつお捌き隊」を結成し、伝統のかつおの捌き方である

「薩摩切り」の技術習得をめざし、イベント等での活動発表を考えています。

コンカツ

プロジェクト

また、枕崎市が日本本土最南端の始発・終着駅を有する市であることから、同様に最北端の始発・終着駅を有する北海道稚内市とは、友好都市盟約を結んでいます。

両市の間で進められている「コンカツ（昆布とかつおのうまみ成分の相乗効果）プロジェクト」にも加わり、北海道稚内高等学校と本校で、それぞれの地元特産品を融合

し、地元企業の協力のもと商品開発に取り組んでいます。

キャビアの生産

そして、栽培工学コース

では、平成19年から育てているチヨウザメから昨年採取に成功したキャビアの生産実用化に向け、ホテルなどでの料理に活用するための試験研究に取り組んでいます。

生徒からは「かつおの生態について詳しく勉強したい」、「製品化と安定した供給ができるよう研究を進めていきたい」などの感想が聞かれ、意欲

的です。

この取組が、地域及び地元企業と連携・協働することで、生徒は授業で学んだことを実践しながら、改めて学習意欲の向上と更なる知識・技術の習得をめざします。

また、様々な活動をおして地域と学校が関わりをもつことで、地域における学校の存在意義と、生徒・保護者・職員が担うそれぞれの役割を再認識し、地域及び学校の活性化と教育内容の充実につながっていくことと思えます。

（教諭 徳満 政幸）



かつお捌き隊の活動風景